

平成23年度「水・土壌環境保全活動功労者表彰」受賞者一覧(敬称略)

推薦者	団体	個人	主な功績
岩手県	カンキョウ ケンキュウカイ カシオペア環境研究会		環境問題を中心に幅広い活動を展開しており、地域の環境意識の高揚に寄与している。また、小学校等の水生生物調査においても講師として活躍しており、環境シンポジウム・環境学習発表会の実施など、環境教育の面でも功績は顕著である。
	ヤサワ チイキ シゼン ホゴ カンガ 矢沢地域の自然保護を考 える会		絶滅危惧種であるゼニタナゴの保護活動を継続的に展開 ・ゼニタナゴとその産卵貝(ドブ貝)は、平成12年に圃場整備事業の際確認されたもの。その後関係機関や地域住民の間で保護活動が徐々に始まり、地域住民を中心とする保護団体「矢沢地域の自然保護を考える会」が平成17年に結成され、保護活動を本格始動した(現在、会員数は個人40人程と5団体)。 ・県や北里大学水産学部、猿ヶ石北部土地改良区、花巻市などとともに保護活動を展開。ピオトープ水路や生息池の整備、外来魚の駆除、産卵貝(ドブ貝)の採取・放流、子供向けの環境教室の開催、周辺森林の整備など、水環境の保全に精力的に取り組んできている。現在中島会長宅付近の4箇所(池)に5,000から一万匹程度の生息が確認されている。
茨城県	サカサガワ アイ カイ 逆川を愛する会		<ul style="list-style-type: none"> 流域の市民、小中学校とともに水質検査と河川の清掃を実施。(年4回) 徳川光圀が1663年に造った名水、笠原水源の保全活動を実施。(年2回) 国の全国水生生物調査への協力の一環として、逆川、桜川、千波湖での市民学習会の開催。(年3回) 環境省指定「ふるさと生き物の里100選」に選ばれている常照寺のホタル再生活動。(年3回) 水戸市河川に遡上するサケ保全活動、産卵・遡上個体数の確認調査。(平成17年以降、毎年調査11～12月) サケ調査で採取した生存卵を地元の小学生と飼育し、例年3月に水戸市長とともに放流。 千波湖のアオコ発生現状を調査し、データや研究成果をフォーラムやシンポジウムで発表。(年2回以上) 農業用水利用目的で閉鎖していた桜川の柳堤ダムをサケ遡上、保全のために一定期間開放するための提案。
		ツカモト ヨシオ 塚本 芳雄	浄化槽を販売する傍ら、適正な浄化槽の工事及び維持管理の方法などを促進し、環境に配慮した取り組みをしている。一方、笠間支部長としてもその行動力と豊富な知識・技術を発揮し、会員や地域住民に対し、浄化槽の設置や維持管理上の諸問題に対して、相談、助言を行うなど、生活排水処理の重要性を訴え、水環境の保全に大きく貢献している。支部長として、30年の長きにわたり地域の水環境の保全に尽力するなど、これらの功績は誠に顕著である。
栃木県		ホンダ ヨシノリ 本田 善則	平成8年から平成23年8月までの永きにわたり、栃木県環境審議会委員、同水質専門委員会議座長及び同水質部会長などの要職を歴任し、「栃木県環境基本計画」、「公共用水域及び地下水の水質測定計画」、「栃木県公害防止条例の改正」、「水生生物の保全に係る環境基準類型指定」など多くの本県環境行政に係る各種計画の策定等に携わった。また、平成11年から平成20年まで、栃木県環境影響評価技術審査会委員、会長として、環境影響評価制度の運営に精力的に取り組んだ。この間、多くの案件の環境影響評価審査に携わり、特に水環境についての卓抜な見識と豊富な経験を発揮し、委員会の場において中心的な役割を担った。

埼玉県	<p>ホウジン NPO法人 ふるさと創生クラブ</p>		<ul style="list-style-type: none"> 水路(油免落し)での清掃活動、水質浄化活動、水質調査を実施することにより、地域の水環境保全に貢献している。 水辺の自然環境モデルとして造成した「水辺のビオトープ」において、野生生物等の保護を行うとともに、地元の小学生を対象とした生物観察授業や体験教室を実施することにより、子どもたちの水環境保全意識の醸成に貢献している。 行政と地域・団体との協働事業に積極的に参加し、大きく貢献した。
	<p>コマガワ 高麗川ふるさとの会</p>		<ul style="list-style-type: none"> 月1回の清掃活動と、年数回の草刈を継続的に実施することにより、水辺に親しめる環境維持を行っている。 水質調査や野鳥調査を行い、水質浄化に取り組むなど、水辺環境の保全に貢献している。 地域児童を対象に自然観察会を実施し、環境保全意識の醸成を行っている。 年3回、会報を発行する他、河川をテーマに写真展を実施し環境保全の啓発を行っている。
千葉県		<p>コンノ ミツオ 近野 光雄</p>	<p>市職員として市政に携わった経験を生かし、退職後の平成12年10月から現在に至る11年間に渡り「市川市生活排水対策推進員(通称:みずアドバイザー)」として、生活排水対策をはじめ地域の水環境の改善に尽力してきた。</p> <p>具体的には、家庭でできる生活排水対策を関係住民に周知するため、下水道未整備区域である市内の真間川流域(真間川、大柏川、派川大柏川、国分川、春木川)を中心に公民館まつりや学校行事等に積極的に参加し、啓発活動を行ってきた。</p> <p>特に、地元の小学生を対象とした環境学習会では、自身が考えた体験型プログラムにより、生活排水対策の重要性をわかりやすく伝えている。</p> <p>活動実績は、11年間で延べ1,700人を超え、子どもたちからも大変分かりやすいとの好評を得ている。</p> <p>こうした活動が、市民の生活排水対策への意識高揚を促し、市内河川の水質は着実に改善されてきた。22年度の調査結果(速報値)では、環境基準値をクリアしており、こうした成果への氏の貢献は顕著と認められる。</p>
富山県	<p>ナナムラゴウ 七村郷Vセブン委員会</p>		<p>「不動滝の霊水」の保全活動の充実を図るため、平成13年11月に周辺7自治体により「七村郷Vセブン委員会」が設立され、活発な清掃活動等を通じて地域の優れた水環境を守り育ててきた。これらの活動により、不動滝の霊水の名が広がり、県内外から多くの人が訪れるようになった。</p> <p>近年は、地元の中学生にも活動を呼びかけ、空き缶拾いやごみ清掃等を通じて環境保全意識の高揚に努めているほか、自治体等にも呼びかけることにより、活動の輪が一層広がっている。</p> <p>【主な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不動滝霊水の清掃・周辺草刈り(月1回(3月~12月)) 不動滝公園、道路等のごみ・空き缶拾い(年2回×約120名参加) 霊水へのアクセス道路における不法投棄防止パトロール(月2回) 不法投棄防止を呼びかける警報設備の設置(平成18年) <p>本会の活発な活動等が認められ、「不動滝の霊水」は平成20年6月に環境省「平成の名水百選」に選定された。</p>
石川県	<p>キバガタサイセイ 木場潟再生プロジェクト</p>		<p>定期的な水質測定や生物調査の実施や、ヨシの保全・育成及び炭と水生生物の植栽を施した筏を活用した水質改善を試みるとともに、潟の周辺に水草園や池を整備し、ガガタやヒシ等の水生植物の復元・育成を行っている。</p> <p>また、「木場潟キッズクラブ」を結成し、次世代を担う子供達とともに活動・学習することを通じて、水質浄化や生活排水対策の重要性を普及啓発しており、水質浄化と生態系の復活・保全など、水環境保全意識の高揚に大きく貢献している。</p>

岐阜県	<small>ギフ ケンリツ オオガキヒガシコウトウ ガッコウ</small> 岐阜県立大垣東高等学校 <small>リスウカ</small> 理数科		<p>大垣東高等学校理数科では、絶滅が危惧されている淡水魚「ハリヨ」を教材とした環境保全学習を行い、生育環境を整備するため清掃を行っている。毎年1年生が岐阜県西濃地域のハリヨの生息状況を学び、野外観察、水質調査、周辺環境調査及び、生息地周辺地域での聞き取りによる住民の意識調査を実施している。これらの研究成果をリーフレットにまとめ、調査地域に全戸配布する活動も行っており、住民のハリヨに対する保護意識の高揚の一助になっている。</p> <p>また平成19年の「湧水フォーラム全国大会」、平成22年のCOP10生物多様性交流フェアに参加、ハリヨの研究成果を発表した。</p>
愛知県	<small>カスガイシ ショウヘシヤ</small> 春日井市消費者グループ <small>カイ</small> なずなの会		<p>平成2年から市内12河川を中心に河川水質調査や河川敷周辺の清掃等を実施してきた。</p> <p>ここ数年は、市内中心部を流れる身近な河川「八田川」に焦点をあて、18名の会員を中心に、一般市民にも参加を呼びかけ、年1回の調査を行っている。調査にあたっては、八田川流域の9地点において、生活排水による水の汚れを調べるため、簡易パックテストを用いて、pH、COD、窒素、リン酸等の水質項目を始め、ごみの散乱状況など計14項目について詳しい調査を行っている。</p> <p>また、河川水質調査結果やその他環境保全活動の内容を、市民に分かりやすいよう模造紙にまとめ、春日井市などが主催する消費生活展やエコワールドなどの環境イベント(年3回程度)で展示するなど、行政と協力・連携し、広く市民への啓発活動に取り組んでいる。</p>
滋賀県	<small>ヒコネシ カンキョウホゼンシドウイン レン</small> 彦根市環境保全指導員連 <small>ラクカイギ</small> 絡会議		<p>平成12年から、毎月、会議所属の指導員が市内主要河川に流れ込む水路140地点の水質(pH、COD、アンモニア、リン酸)調査を行い、その結果を地点別に水質に応じて色分けした地図を作成するなどして、生活排水対策の啓発活動を実施している。</p> <p>また、平成19年から、ホテルが自然発生する水環境の再生を目的として、市内のホテル出沒数を計測するなどの生息調査を毎年5～6月にかけて実施。</p> <p>さらに、小学校や自治会に向けて、「川を守りたい」という子ども達のこころを養うことなどを目的に、水環境に関する出前講座を年に数回程度実施し、水生生物との触れ合いや河川の汚濁にかかる実験、水辺や川底のゴミ拾いなどを行うなど、水環境保全の推進に多大な貢献を果たしている。</p>
京都府	<small>カンバヤシ ガワウツク</small> 上林川を美しくする会 <small>カイ</small>		<ul style="list-style-type: none"> ・排水を考える部会、水質保全部会、景観保全部会、啓発部会の4部会を設置し、それぞれが部会の長をしながら、川を美しくするという共通した目的に向かって事業を推進している。 ・家庭・農業・事業所からの排水が川に与える影響について調査し、排水浄化の方法について検討、実践している。 ・会の発足以来、継続して定期的に上林川の水質調査を実施し、状況の把握を行っている。また、学校、関係機関と連携し、地元の小・中学校の児童・生徒と一緒に水生生物・魚類調査を毎年行っている。次世代を担う子供たちがふるさとの川に親しみ、たくさんのお話を学ぶ場ともなっている。 ・川の景観保全や水質浄化を図るため、流域の住民を始め市民の参加を得て、川原に群生している葦を刈る作業や清掃活動「環境美化大作戦」を実施している。 ・川を美しくする意識の高揚を図り、環境保全・美化活動を推進するため、啓発・教育活動を行っている。
	<small>サカモト イサオ</small> 阪本 伊三雄		<ul style="list-style-type: none"> ・水環境及び自然環境の調査をはじめ、教育機関や各種団体等より依頼を受け、講師として環境学習会を開催し、環境保全の啓発に努めている。 ・河川の水質検査と水生生物等の調査：平成9年5月～年5～6回 ・宇治田原町内の山と森の植生と、水資源及び生物資源の調査：平成11年5月～年4回 ・ゲンジボタル等の講座と鑑賞会を開催：平成14年6月～年3回夏季 ・宇治田原町環境生物研究会会長として、宇治田原町全域の野生生物の総合調査をおこない、報告書として「宇治田原町の野生生物」を平成18年3月に発行：平成15年5月～ ・休耕田を活用した「ビオトープ」の鑑賞会を開催：平成18年5月～年3～4回 ・どんぐりの森作り事業を、毎年10月にくつわ池周辺にて開催(水質自然浄化の森づくり)：平成18年10月～ <p>上記活動に係る参加者は小中学生を中心に親子だけでなく、シニア等の学習会も設けられ、幅広く環境保全の啓発に努めている。</p>

大阪府	カワチナガノ シゼン カンキョウ ヌゴ 河内長野市自然環境保護 キョウキカイスイセイセイブツ カイ 協議会水生生物の会		<ul style="list-style-type: none"> ・毎年5月、主に市内の親子を対象にして水生生物観察会（平成23年度66人の参加）を実施する他、南河内の3市2町1村と大和川水環境協議会大阪府域連絡会で実施する『親子のふれあい自然学習会』（平成23年度247人の参加）では講師として協力する等、子どもたちに川とふれあうことを通じて水環境の保全を啓発。 ・月に1回、河川の生物調査を行い、市内の川の実態把握に努める。 ・河内長野市自然環境保護協議会主催の自然保護展（平成23年度199人来場）において、河川の生物調査等の日頃の研究成果を発表展示し、水環境の保全を啓発。 ・その他、地域の小学校等からの依頼により、水生生物観察の講師を務める等、河川環境の大切さを訴える活動を実施。
		フクナガ イサオ 福永 勲	<p>吹田市は、平成3年に南吹田地域で地下水汚染を確認し、平成11年から吹田市土壌・地下水汚染調査等専門員を設置、平成22年に吹田市南吹田地域土壌・地下水汚染浄化対策検討委員会を設置している。</p> <p>福永勲氏は、平成15年から吹田市土壌・地下水汚染調査等専門員に、平成22年には吹田市南吹田地域土壌・地下水汚染浄化対策検討委員会の委員に就任し、当該地域の土壌・地下水汚染に係る浄化対策等の推進に尽力している。</p> <p>具体例としては、環境工学の専門的観点から、平成20年度に当該市が実施した南吹田地域の地下水汚染機構解明調査において、汚染範囲と汚染源の把握に関する見解を示し、地下水汚染機構解明に多大な貢献を行った。</p>
和歌山県		タカダ リョウヘイ 高田 亮平	<p>浄化槽工事業を通じ、地域の水環境保全について市民への啓発普及を行い、平成元年に環境庁よりホテルの里として選定をうけた貴志川町ゲンジボタルを育てる会に所属し、毎年開催される「ほたるサミット」に参加し、ホテルを通じて自然に対する理解を深めるなど、活力ある緑豊かなふるさとづくりの推進に取り組むと共に、貴志川水系でホテルを育て水辺に帰す活動や、ホテルの生育に必要なきれいな水環境の保護活動を続けている。</p> <p>また、平池緑地公園管理運営委員会代表として、平池緑地を良好な環境に管理すると共に、学習会への協力、遊歩道の清掃や草刈り、池内のヒシ取り、水位の管理など水環境の維持保全に努めている。</p> <p>平成16年からは、(社)和歌山県浄化そう協会理事として、地域での実践活動を会員に指導し、会員の地元での水環境の保護活動の実践及び啓発普及に多大の功績を挙げている。</p>
山口県		オウダ ケンゴ 奥田 賢吾	<p>長年に亘り、島田川水系の淡水魚をはじめ、山川海(海浜干潟)の生物(魚類、両生類、昆虫)の調査及び生物保全活動を継続。</p> <p>平成6年より年7回程度、児童を対象に生物観察会を続ける。近年では対象を大人にも広げ、親子生物観察会として地域に定着している。</p> <p>地方紙に週1回、生物観察に関する連載をイラストと共に発表し、現在866回を数える。</p> <p>講話や絵画の展示を行い、環境と生物の有り様について、広く興味を持ってもらう活動を推進。</p> <p>以上の活動により、県民の環境意識の向上及び地域の環境保全の推進に顕著な功績が認められる。</p>
香川県	ウタツ チョウリウウツツ ショウウガッコウ 宇多津町立宇多津小学校		<p>学校全体で、河川の清掃活動に年間6回と定期的に取り組んでいる。また、年に1回、毎年約30名の生徒がスイセンの植付けによる緑化運動に取り組んでいる。さらに、平成20年度からは年に1回、水生生物水質調査を行っている。</p>
	カラト シミズ マモ カイ 唐櫃の清水を守る会		<p>「唐櫃の清水」(湧水)の水環境保全推進員として平成13年に委嘱され、毎月、会のメンバーのうち5名～8名ほどが清掃活動を行い(年2回は会のメンバーのうち16～20名ほどが大掃除を行っている)、年間を通しての維持管理を継続して行っている。</p>

高知県	チキョウ パンチ ジッコウ イインカイ 地球33番地実行委員会		<p>「地球33番地実行委員会」は、東経133度33分33秒、北緯33度33分33秒という緯度経度に「3」が12個も並ぶ「地球33番地」と呼ばれる場所が高知市内を流れる江ノ口川の中にあることに着目して、以下の活動を行っている。</p> <p>「地球33番地記念式典」を平成3年より継続して毎年1回3月3日に開催し、平成22年度は、江ノ口川の一斉清掃や、地域活動報告(リユースカップの取組、水質浄化活動、環境学習の取組)、小学生による環境標語の発表などを行った。</p> <p>また、平成21年度より江ノ口川沿い(約3km)を歩いて、身近な環境に目を向けてもらうための「地球33番地 環境を考えるウォーキング」も開催し、平成22年度は約300人が参加した。</p> <p>このほかこれまでに、シンポジウムの開催、江ノ口川沿いの花壇の整備、ウォーキングマップの作成、ホームページによる情報発信なども行っている。</p>
浜松市	サ ナルコ カイ 佐鳴湖をきれいにする会		<p>佐鳴湖をきれいにする会は、佐鳴湖の美化と自然保護を目的に昭和57年に設立され、以下の活動を通じて佐鳴湖の水環境の保全に多大な貢献をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 約1,500～2,000人の参加者による佐鳴湖クリーン作戦を年2回実施し、佐鳴湖周辺の草刈りやごみ拾いを実施するとともに、会員が適宜清掃活動を行っている。 ・ 佐鳴湖周辺の小中学校の環境教育活動やボランティア活動等に協力し、佐鳴湖周辺に啓発看板を立てるなど、佐鳴湖をきれいにするための啓発・啓蒙活動を行っている。 ・ 佐鳴湖の水質浄化対策として市が設置補助をしている雨水浸透ますを設置するよう補助対象区域の住民に働きかけるなど、佐鳴湖の浄化・保全等にかかる関係機関と協力したり、関係機関に提案協議を行っている。
	ホウガフ カイ 芳川をきれいにする会		<p>「芳川をきれいにする会」は、浜松市の市街地を流れる芳川を昔のようにきれいにすることを目指し活動している市民団体であり、以下の活動を通じて河川の美化活動及び自然環境の保全に多大な貢献をしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 約300～400名の参加者によるクリーン作戦を年1回実施し、芳川への不法投棄物の回収を実施するとともに、常時、会員による監視活動を行っている。 ・ 流域の小中学生など約100名による水生生物調査を毎年実施している。 ・ 芳川の汚れをボートに乗船して観察する体験学習など小中学生向けの環境教育を実施している。
名古屋市	ホリカフ チョウサタイ ジツ 堀川1000人調査隊2010実行委員会		<ul style="list-style-type: none"> ・ 木曾川導水社会実験の効果を検証すると共に堀川の実態解明に迫った。 ・ 定点観測隊の調査結果を分析し、調査隊会議において意見交換を行うとともに、研究会等によって堀川の汚染メカニズムの実態解明に迫り、堀川再生への処方箋づくりに貢献している。平成23年9月10日には、名古屋市に堀川浄化に対する市民提言書を提出した。 ・ 清掃活動などの活発化： 堀川を浮遊するごみの多くは陸上のごみが風で飛ばされたものと判明したことにより、護岸・遊歩道など陸上を積極的に清掃した。結果、堀川の浮遊ごみが減少した。 ・ 啓発活動の活発化： 小中学生の水質調査体験学習等、校外での学習活動に積極的に協力するとともに、各種団体等への講演活動も実施し、積極的な啓発活動を展開した。また、行政と連携し、フェスタ等にブース出展、堀川応援隊への参加を呼びかけ、成果をあげている。 ・ 情報発信・情報共有におけるインターネットの活用： 多くの参加者に対し、迅速・安価に情報発信・伝達できるよう、第一次調査隊発足(平成15年9月当時)からホームページや一斉メールを取り入れ、また、英文HPも開設し、海外へも情報発信をしている。 ・ 流域交流： 市上下水道局のと連携して、木曾川流域との上下流交流活動を続けている(現在、揖斐川・長良川流域を含めた木曾三川上下流交流活動も計画中)。また、伊勢湾流域圏再生ネットワーク(中部建設協会との連携)への参加や愛知・岐阜・三重等の市民団体との交流も行っている。 ・ 堀川応援隊による人材の発掘・開拓： 堀川応援隊では、堀川の再生や新たな魅力の発掘を目的とした、堀川フラワーフェスティバル等のイベントを実施している。
北海道 地方環境 事務所	レキフネガフ セイリユウ マモ カイ 歴舟川の清流を守る会		<p>平成4年から年1回、歴舟川の河川敷及び魚道の清掃を行うとともに、長期にわたり、河畔林への植樹、水生動物の生息及び水質調査、地域の学校及び体験学習会への自然体験指導員の派遣など、河川の自然景観の保全活動や河川愛護の啓発活動を続けている。</p>

団体 19

個人 7

合計 26